

柏市史編さん刊行計画 (仮) 柏市史 (沼南町史 通史編) について

令和元年度第2回
柏市史編さん委員会資料
令和元年12月20日(金)

柏市教育委員会 文化課

2. 沼南通史編さん事業の経緯

時期	内容
平成12年(2000)12月22日	通史編さん事業の一応の終結により, 旧柏市側での市史編さん委員会は解散。
平成17年(2005)3月28日	旧柏市と旧沼南町が合併。
平成17年(2005)5月20日	旧沼南町部分について編さん事業が継続中のため, 柏市史編さん委員会復活。
以降, 通史の基礎史料となる文献史料や考古資料, 研究誌等の編さんを優先的に刊行。 また, 市史編さん委員会において随時, 沼南通史に関する議論・検討がなされる。	
平成27年(2015)7月27日	沼南通史編集会議開催
平成28年(2016)5月23日	「柏市史編さんの基本的な考え方ー市史編さん基本方針ー」にて, 「旧沼南地区の通史の完成」が市史刊行の柱の一つとして示される。
平成28年(2016)6月28日	沼南通史関連会議開催の延期決定, 通知(H28年度事業予算未決のため)
平成29年(2017)3月30日	沼南通史関連会議開催の延期決定, 通知(H29年度事業予算未決のため)
平成30年度(2018)	会議費についてのみ予算措置がなされる。 沼南通史編集会議を開催, 事業検討を再起動。
令和元年度(2019)	沼南通史刊行事業の予算化決定, 事業スタート(4カ年度計画)

3. 事業スケジュール（案）

		1年度目												2年度目												3年度目												4年度目											
		令和元年度												令和2年度												令和3年度												令和4年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
刊 行 事 業 工 程	執筆依頼	●-----●																																															
	調査													●-----●																																			
	執筆													●-----●																																			
	編集(案)																									●-----●																							
	校正																																					●-----●											
	印刷製本																																					●-----●											
各年度の ポイント		<ul style="list-style-type: none"> 目次構成、執筆者依頼については夏休み終了までに完了。→済み 調査は年度内に半分を完了(残り半分は次年度実施)。 執筆期間が約1年半のため、原稿料の支出は同年度内に1/3を完了。 												<ul style="list-style-type: none"> 残り半分の調査を完了。 原稿料は残り2/3を支出完了。 年度末の時点で、(イメージとして)95%以上の確度の完成原稿納品となるよう、全執筆者からの協力を頂く。 図版作成について難易度の低いものは事務局、高い者は専門事業者へ委託予定。 												<ul style="list-style-type: none"> 編集業務は当初、事務局での内製化を想定していたが、次の工程である印刷製本に直結する業務であること、デジタル技術・専門書制作への高い専門性を要することから、3年度目早期中に、編集も担える印刷会社と契約予定。 												<ul style="list-style-type: none"> 年度内ではなく年内完成・納品とし、次事業への具体検討を進める。 											

4. 目次構成・主たる仕様

現時点の目次構成案

区分(編)	ページ数	主項目(章)
原始古代	209	・最古の狩人一柏市における旧石器時代の調査と研究一 ・定住生活と土器の始まり ・農耕社会と国家の形成 ・律令制による中央集権と地方の変化
中世	115	・武家の時代のはじまりと沼南 ・鎌倉府の時代の沼南 ・戦国の動乱と沼南 ・沼南の中世社会
近世	186	・近世村の成立 ・村の暮らし ・手賀沼の開発と沼沿いの村々 ・牧と鷹場ある暮らし ・水の交通・陸の交通 ・領主支配の揺らぎ ・芳野金陵と幕末の社会
近現代	230	・近代の黎明(明治期) ・村政の展開と戦争(大正期、昭和戦前期) ・復興と変貌(昭和戦後期・平成期) ・手賀沼
民俗	30	・沼南地域の民俗
巻頭口絵・引用文献等	30	
合計	800	

<主たる仕様>(案)

○全800ページ

○旧石器～平成の合併まで

○これまでに刊行した『資料集』等の成果を踏まえ、一定の学術レベルを保ちつつも、市民に読みやすいもの

○A5判・縦書き

○1分冊

○巻頭口絵(16P予定)のみカラー、本文はモノクロ

○ハードカバー

○函は紙函にカラーのカバー付き